

撥川水系撥川

Bachigawasuikei BACHIGAWA



After

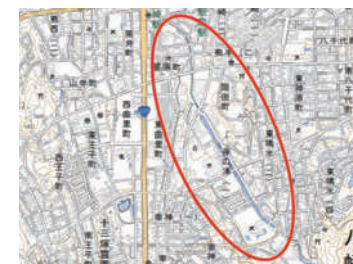
Before



もう一度、
魚がくらせるように。

昭和28年の西日本大水害で早急に治水安全度を高める必要性から、三面張りコンクリート護岸(※1)の整備が行われた結果、人が近づくこともできず、植物や魚もすめない川となってしまった撥川。「もう一度魚がすみ、植物が繁り、人々が水辺に近づける川に蘇らせよう」をコンセプトに、市民参加で川の再生に向けた取り組みが平成7年にスタート。その結果、整備後数年で魚類の生息も確認でき、都心の川でありながら多くのホタルが舞う、地域に愛されるシンボル河川として蘇りました。

※1 川底と川岸をコンクリートで固めた護岸のこと。



N33度51分28秒 E130度45分59秒
(33.858,130.766)